

令和7年度 補正予算の概要

令和7年11月
農林水産技術会議事務局



農林水産技術会議事務局
ホームページはこちら



農林水産技術会議事務局 令和7年度補正予算の重点事項

農林水産技術会議事務局 令和7年度補正予算額：18,975百万円

<農業構造転換集中対策>

スマート農業技術・新品種の開発

【18,725百万円】

スマート農業技術開発・供給加速化対策

【8,970百万円】

スマート農業技術活用促進法の基本方針に位置付けられた重点開発目標に基づき、生産現場において優先度が高く即戦力となるスマート農業技術の開発・供給の取組を支援。

アグリテック系スタートアップ重点化支援対策

【2,070百万円】

農林水産・食品分野における革新的な研究開発とその事業化を目指して取り組むスタートアップ等に対して、発想段階から事業化準備段階までの取組を切れ目なく支援するとともに、スタートアップ等が有する技術の社会実装に向けた大規模技術実証を支援。

生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発

【3,010百万円】

多収性等革新的な特性を持った品種の開発を行うとともに、スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、育種現場で簡便に利用できる育種効率化基盤を構築。また、これらの品種開発に必要な高精度な分析機器を整備。

農業関係試験研究国立研究開発法人の機能強化

【4,675百万円】

農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が産官学連携のハブとなり、我が国の農業・食品分野の研究開発をリードするとともに、農研機構等の業務を適切かつ効率的に推進していくため、研究開発の加速化に必要な施設の整備・改修を実施。

<輸出5兆円目標の実現に向けた「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」の実施>

輸出拡大に向けたニーズや付加価値の高い農産物の栽培・加工技術等の開発

【200百万円】

海外におけるニーズの高い輸出重点品目である茶、かんしょ等について、輸出先国の規制・ニーズ、長距離輸送等に対応した技術を開発。

<花粉症対策等の推進>

スギ花粉米の実用化に向けた安全性・有効性の検証

【50百万円】

スギ花粉米の実用化に向けた安全性・有効性の検証の取組を推進。

<対策のポイント>
スマート農業技術の社会実装を進めるため、スマート農業技術活用促進法の基本方針に位置付けた**重点開発目標に基づき、生産現場において優先度が
高く即戦力となるスマート農業技術の開発・供給の取組**を支援します。

<事業目標>
スマート農業技術活用促進法の開発供給事業の促進の目標に掲げる技術の実用化割合を100%〔令和12年度まで〕

- <事業の内容>**
- 1. 重点課題対応型研究開発（農研機構対応型）**
民間事業者による研究開発等を加速させるため、農研機構による**品目共通の基幹的技術や研究開発を促進する基盤的技術の開発**を推進します。
 - 2. 重点課題対応型研究開発（民間事業者対応型）**
特に必要性が高いスマート農業技術の開発を促進するため、スマート農業技術活用促進法に基づく**重点開発目標に沿った民間事業者による研究開発**を支援します。
 - 3. 低コスト・小型化等現場ニーズ即応型開発**
中山間地域等の生産現場の即戦力となる技術の開発・実用化を推進するため、「**低コスト**」や「**小型化**」等の現場ニーズに基づく**研究開発**を支援します。
 - 4. 先行的研究開発支援**
スマート農業技術の研究開発を担う**新たなプレイヤーの参画**を推進するため、特に機動力、アイデアを有する**高専や職業能力開発大学校等が行う民間企業と連携した供給につながる研究開発**を支援します。
 - 5. 技術改良・新たな栽培方法の確立の促進**
開発技術を円滑に産地へ供給するため、メーカーとサービス事業者等による**プロトタイプ**の製造段階における改良や技術に適合した**新たな栽培方法の確立**を支援します。

- 6. スマート生産方式SOP（標準作業手順書）作成研究**
スマート農業技術の導入を推進するため、**導入効果を着実に発揮させる栽培体系やサービス事業者を介した技術の運用方法等**を検証し、標準化する取組を推進します。



<事業イメージ>

アグリテック系スタートアップ重点化支援対策

令和7年度補正予算額 2,070百万円

＜対策のポイント＞

農林水産・食品分野における政策的・社会的課題の解決やサービス事業体等の新たなビジネス創出のため、SBIR制度※のもと、革新的な研究開発とその事業化を目指して取り組むスタートアップ・中小企業等を支援します。あわせて、将来のアグリテックを担う優秀な若手人材を発掘し、研究開発や事業化に關する能力向上をサポートします。

＜事業目標＞

終了課題のうち50%以上において、事業化が有望な研究成果を創出〔令和10年度まで〕等

※スタートアップ等による研究開発とその成果の事業化を支援し、それによる我が国のイノベーション創出の促進を目的とした省庁横断的な制度（Small/Startup Business Innovation Research）。

＜事業の内容＞

＜事業イメージ＞

1. スタートアップ創出強化対策

1,070百万円

①スタートアップ等が行う研究開発・事業化を目指す取組の支援

発想段階から事業化準備までの取組を切れ目なく支援します。さらに、支援するスタートアップの事業化の確度を上げ、速やかな自立を後押しするため、事業化の方向性を固める上で重要なフェーズ1の期間を延長（1年→2年）します。

【フェーズ0、1：上限10百万円/年、フェーズ2：上限20百万円/年、事業化準備フェーズ（※）：上限30百万円/年】

※ マatchingファンド方式（VC等の出資を受けることを前提とし、VC出資額等と同額まで補助）で支援。

②スーパーアグリクリエイター発掘支援

将来のアグリテックを担う優秀な若手人材を発掘し、研究起業家としての能力向上を支援します。

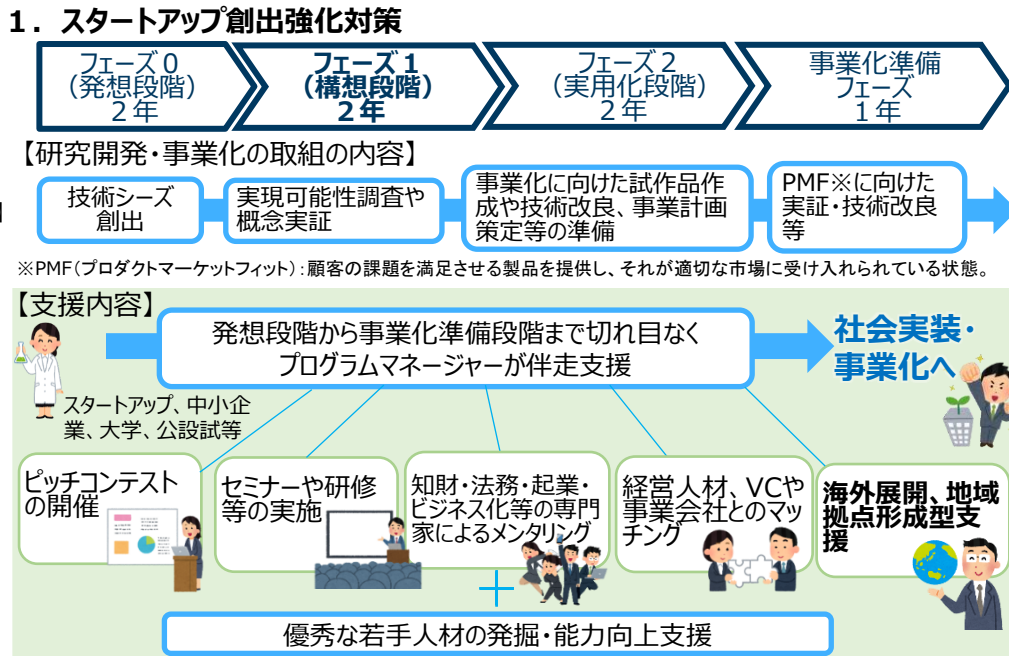
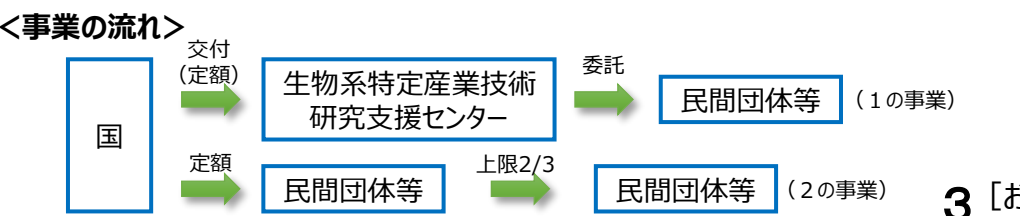
③プログラママネージャー等による伴走支援等

事業化に関する知見・経験を豊富に有するプログラママネージャー等による、経営人材・事業会社・ベンチャーキャピタル（VC）等とのマatching、知財・ビジネス化・資金調達等に関するメンタリング、ピッチコンテスト開催、海外展開や地域発スタートアップの連携構築などの伴走支援を行います。

2. スタートアップ大規模技術実証支援事業

1,000百万円

現場課題の解決に直結する革新的な技術の事業化を目指す農林水産・食品分野のスタートアップの大規模技術実証を支援します。



生産性の抜本的な向上を加速化する革新的新品種開発

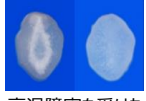



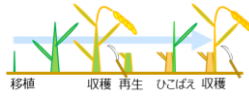
令和7年度補正予算額 3,010百万円

<対策のポイント>

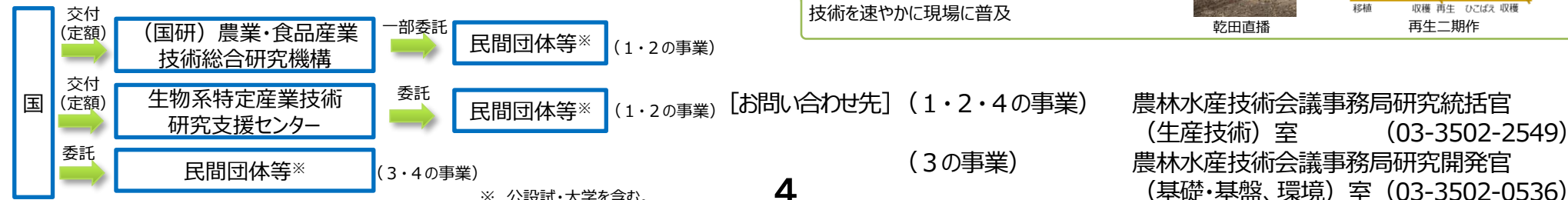
生産性の抜本的な向上を加速化する多収性品種等革新的な特性を持った品種、開発した品種の利用拡大に資する栽培技術、省力的な種苗生産技術、育種素材の開発等について、新たに整備する高精度な分析機器も活用しつつ実施します。加えて、スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、育種現場で簡便に利用できる育種効率化基盤を構築します。また、水稻の生産性の抜本的向上に資する技術の開発により、我が国の食料安全保障の確保に貢献します。

<事業目標>

多収化や高温耐性などに資する35品種の育成 [令和12年度まで]

<事業の内容>	<事業イメージ>
<div>1. 政策ニーズに対応した革新的新品種開発1,400百万円</div> <div>① 今後の国内農業の基盤となる革新的な新品種の開発</div> <div>② 品種の利用拡大に資する新品種の栽培技術、省力的な種苗生産技術の開発</div> <div>③ 切れ目なく品種開発を継続するための育種素材の開発</div> <div>を産官学の連携により推進します。</div>	<div>1. 政策ニーズに対応した革新的新品種開発</div> <div>◆革新的な新品種の開発 (多収性、機械作業適性、高温耐性品種など)</div> <div>◆栽培技術・種苗生産技術の開発</div> <div>◆育種素材の開発</div> <div>生産性向上等により、食料・農業・農村基本計画のKPI達成に寄与</div> <div> 高温障害を受けた米粒 (左)</div> <div> 高温による浮皮被害</div>
<div>2. より高精度な新品種開発のための分析機器等の整備840百万円</div> <div>より精度の高い特性評価等を行うことにより、ニーズに最適となる品種を確実に開発するため、新品種の開発等に必要な分析機器等を整備します。</div>	<div>2. より高精度な新品種開発のための分析機器等の整備</div> <div>新品種の開発、栽培技術・種苗生産技術の開発、育種素材の開発に必要な分析機器等の整備</div>
<div>3. 新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築600百万円</div> <div>ゲノム情報、AI、遺伝資源等をフル活用し、穀物、野菜、果樹などの新品種開発を加速化できる作物横断的な育種効率化基盤の開発を推進します。</div>	<div>3. 新品種開発を加速化する作物横断的育種効率化基盤の構築</div> <div>スマート育種技術を低コスト化・高精度化し、多品目に利用できる育種効率化基盤を開発</div> <div>・作物横断的な育種情報データベースの構築</div> <div>・AI等により最適な交配親の予測や効率的な選抜ができる育種支援ツールの開発</div> <div>・作物形質の計測を効率化する高速フェノタイピング技術の開発</div> <div> ◆病虫害抵抗性 ◆肥料利用効率向上 ◆環境負荷低減 等 の先進的な特性を持つ品種育成を加速化</div>
<div>4. 食料安全保障強化に向けた水稻の低コスト・多収栽培技術の開発170百万円</div> <div>各地域における乾田直播や再生二期作に適した多収品種等を選定するとともに、その能力を最大限に発揮するための極めて低コストな栽培技術を開発します。また、節水型乾田直播の確立に向けた水管理や雑草防除技術等を開発します。</div>	<div>4. 食料安全保障強化に向けた水稻の低コスト・多収栽培技術の開発</div> <div>水稻の低コスト・多収栽培を可能とする技術を開発し、マニュアルの作成・改訂等により、開発技術を速やかに現場に普及</div> <div> 乾田直播</div> <div> 移植 収穫 再生 ひこばえ 収穫 再生二期作</div>

<事業の流れ>



＜対策のポイント＞

農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）が産官学連携のハブとなり、我が国の農業・食品分野の研究開発をリードするとともに、農研機構及び国際農林水産業研究センターの業務を適切かつ効率的に推進していくため、研究開発の加速化に必要な施設の整備・改修を行います。

＜事業目標＞

都道府県試験場や大学、民間企業との連携を強化して地域の課題に対応した研究開発を推進し、研究成果の社会実装を加速化

＜事業の内容＞

1. 産官学連携のハブ機能強化のための施設整備

農研機構が産官学連携のハブとなり、我が国の農業・食品分野の研究開発をリードするため、集約化による効率化を図りつつ、地域ニーズに沿った施設を整備・改修します。

2. 研究開発等の基盤強化のための施設整備

基礎から応用・実用化までの総合的な研究開発の持続的な実施、及び安定的な種苗生産・管理等の基盤となる施設を整備・改修します。

＜事業イメージ＞

1. 産官学連携のハブ機能強化



- 施設の集約化による効率化
- 老朽化施設の整備・改修
- 基盤となる施設の整備・改修

2. 研究開発等の基盤強化

- 基礎から応用・実用化までの総合的な研究開発を持続的に実施していくため老朽化施設を整備・改修することによる基盤の強化が必要
- 種苗管理センターにおけるばれいしょ原原種の品質維持・向上対策が急務



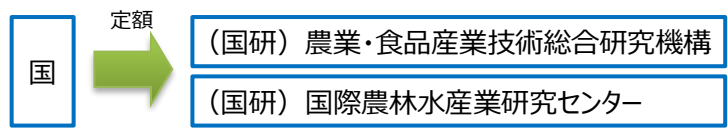
基礎 応用 実用化 研究開発の推進

種いも貯蔵施設

ばれいしょ原原種の安定供給

研究開発等の基盤となる施設の整備・改修 老朽化した施設の整備・改修

＜事業の流れ＞



研究成果の社会実装を加速化

輸出拡大に向けたニーズや付加価値の高い農産物の栽培・加工技術等の開発

令和7年度補正予算額 200百万円

<対策のポイント>

海外におけるニーズが高い輸出重点品目について、輸出先国の規制やニーズに対応した栽培・加工技術や、長距離輸送に対応した技術など、輸出拡大に資する技術を開発し、「海外から稼ぐ力」の強化に貢献します。

<事業目標>

「農林水産物・食品の輸出拡大実行戦略」で位置づける輸出重点品目の輸出拡大に貢献【令和12年度まで】

<事業の内容>

海外におけるニーズが高い輸出重点品目であるかんしょ、イチゴ及び茶における以下の研究開発を実施します。

- ・輸出可能な生産量を確保するための効率的生産体系（かんしょ、イチゴ、茶）
- ・輸出先国の残留農薬基準に対応した病害虫防除体系（イチゴ、茶）
- ・長距離輸送に対応した長期品質保持体系（かんしょ、茶）
- ・輸出先国のニーズに対応した有機など高付加価値化に関する生産・加工技術（イチゴ、茶）



人力による多労なかんしょの移植作業



定型苗の効率的生産体系の確立

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】

<事業イメージ>

- ・マニュアルの作成等により、輸出先国の規制やニーズに対応した高付加価値化に関する栽培・加工技術や、長距離輸送時の腐敗の要因となる傷を防止する技術等の研究開発を行い、輸出拡大に資する技術を速やかに現場に普及

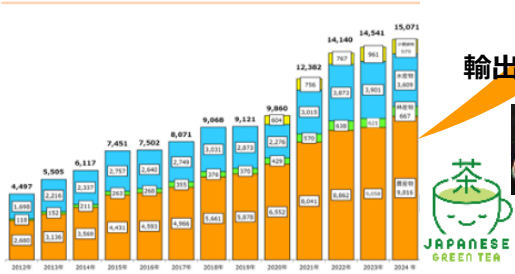


- ・今後成長する海外の食市場を取り込み、農林水産物・食品の輸出の促進を図ることにより、海外から稼ぐ力を強化

【期待される効果】

- ・海外でのニーズが高く、高付加価値・高品質の作物を安定的に生産
- ・輸出にも対応できる生産量を省力的に生産し、生産コストも低減
- ・長距離の輸送を可能とすることにより、輸出先国を拡大する体制を構築 など

農林水産物・食品 輸出額の推移



輸出の拡大



農林水産技術会議事務局研究統括官（生産技術）室 （03-3502-2549）

＜対策のポイント＞
「花粉症対策初期集中対応パッケージ」の着実な実行に向けて、スギ人工林の伐採・植替え等の加速化やスギ材の需要拡大、花粉の少ない苗木の生産拡大、林業の生産性向上及び労働力の確保、花粉の飛散量の予測、花粉の飛散防止、スギ花粉の安全性・有効性の検証等の総合的な対策を推進します。

＜事業目標＞
スギ花粉の発生量の削減（令和2年度比 約2割削減〔令和15年度まで〕、5割削減〔令和35年度まで〕）

＜事業の内容＞

＜事業イメージ＞

1. 花粉の少ない森林への転換促進緊急総合対策 5,564百万円

① **スギ人工林の伐採・植替え等の加速化**
スギ人工林伐採重点区域における、伐採・植替えに寄与する路網整備や伐採・植替えの一貫作業、森林所有者への働きかけ支援による森林の集約化を支援します。

② **スギ材の需要拡大**
住宅分野におけるスギJAS構造材等の利用促進、スギ材の活用に向けた技術開発、集成材工場や保管施設等の整備、建築物等へのスギ材利用の機運の醸成を支援します。

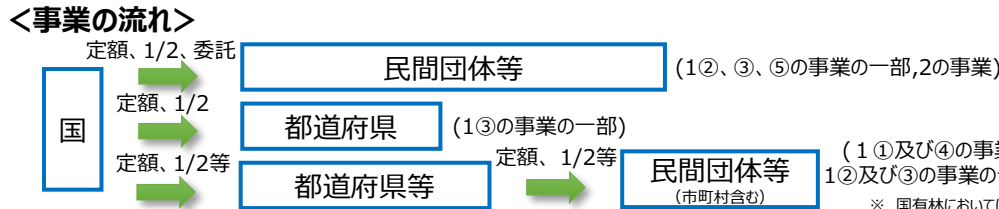
③ **花粉の少ない苗木の生産拡大**
官民を挙げた苗木増産体制の強化、細胞増殖技術を活用した苗木大量増産技術の開発、花粉の少ない苗木の広域流通等を支援します。

④ **林業の生産性向上及び労働力の確保**
意欲ある木材加工業者等に対する先進的な林業機械の導入等を支援します。

⑤ **花粉飛散量の予測・飛散防止**
花粉飛散予測に向けた森林資源情報の高度化、スギ花粉の飛散防止剤の実証試験・環境影響調査の実施を支援し、社会実装を加速化します。

（関連事業）林業・木材産業国際競争力強化総合対策＜一部公共＞
44,993百万円の内数

2. スギ花粉米の実用化に向けた安全性・有効性の検証 50百万円
実用化に向けた作用機序の解明、安全性・有効性のデータの取得等を進めます。



発生源対策

スギ人工林の伐採・植替え等の加速化

スギ人工林伐採重点区域において、伐採・植替えの一貫作業と路網整備を推進

・森林所有者への働きかけ支援による森林の集約化の促進



＜路網の整備＞



＜再造林＞

スギ材需要の拡大

・住宅分野におけるスギJAS構造材等の利用促進

・スギ材活用に向けた技術開発



・集成材工場、保管施設等の整備

・建築物等へのスギ材利用の機運の醸成 <スギJAS集成材>

花粉の少ない苗木の生産拡大

・森林研究・整備機構による原種苗木増産

・都道府県による種穂増産

・民間事業者による苗木生産施設及び生産体制の強化

・細胞増殖による苗木大量増産技術の開発

・苗木の生産量が多い産地から少ない地域への供給の促進

・原種増産技術の開発等



＜原種増産施設＞



＜閉鎖型採種園＞

飛散対策

スギ花粉飛散量の予測

・花粉飛散予測に向けた森林資源情報の高度化を推進



＜林相区分図の整備＞

スギ花粉の飛散防止

・森林現場でスギ花粉の飛散防止剤の実証試験・環境影響調査を支援



＜花粉飛散防止剤により枯死した雄花＞

発症・曝露対策

スギ花粉米の実用化に向けた安全性・有効性の検証

・スギ花粉米（※）の実用化に向けた作用機序の解明、理論を裏付ける安全性・有効性のデータの取得 等

※構造を改変したスギ花粉症の原因物質をコメに蓄積させ、免疫寛容を誘導する新しい治療法



＜お問い合わせ先＞

1の事業 林野庁森林利用課（03-3501-3845）
2の事業 農林水産技術会議事務局研究開発官室（基礎・基盤・環境）（03-3502-0536）

スマート農業技術活用促進法



スマート農業イノベーション
推進会議(IPCSA)



ムーンショット型
農林水産研究開発事業
(生物系特定産業技術研究支援センター)



委託プロジェクト研究
(農林水産研究の推進)



みどりの食料システム基盤農業技術の
アジアムーンソン地域
応用促進事業



知^{産学官連携の新しいかたち}の集積と活用^{の場}
産学官連携協議会



アグリサーチャー

農業研究見える化システム



オープンイノベーション
研究・実用化推進事業
(生物系特定産業技術研究支援センター)



最新農業技術・品種

現場で役立つ
新しい技術や品種を紹介!



担 当
農林水産技術会議事務局研究調整課
(03-3502-7399)